

## 病虫害発生予察 3月月報

(生育概況及び病虫害の調査結果)

令和5年3月の気象表(長野地方気象台)

官 署	平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
長 野	本年	6.2	7.7	10.6	9.0	30.0	22.0	83.4	66.4	65.6
	平年	2.9	4.3	5.6	19.0	16.0	25.1	52.7	59.0	61.5
松 本	本年	7.1	8.0	10.2	9.0	40.0	65.5	91.9	72.1	64.5
	平年	3.1	4.6	5.9	28.0	18.3	31.8	58.5	65.1	67.3
諏 訪	本年	5.9	7.3	9.6	8.5	39.5	51.5	85.4	74.6	63.9
	平年	2.6	3.9	5.3	29.7	23.2	36.1	61.4	67.7	69.8
軽井沢	本年	3.9	4.2	7.0	3.5	36.5	50.5	89.7	71.3	53.7
	平年	-0.3	1.1	2.4	21.5	16.5	30.3	58.3	67.1	69.4
飯 田	本年	7.4	9.4	11.5	18.0	50.0	74.0	78.2	78.5	62.2
	平年	4.7	5.9	7.4	43.9	40.6	54.7	57.6	64.0	66.9

### ○3月の気象概況(令和5年4月7日発表)

高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、低気圧や前線、湿った空気の影  
響で、雨や雪の降った日もあった。

また、大陸からの寒気の影響を受けにくく、日本の東海上を中心に高気圧が  
強かったため、南からの暖かい空気が流れ込みやすく、月平均気温がかなり  
高くなった。

なお、長野地方気象台は3月28日にソメイヨシノの開花を観測した。平年  
と比べ14日早く、前年と比べ12日早い開花となり、1953年の統計開始以来、  
最も早い開花となった。

## 1 麦

### (1) 生育概況

播種は、平年並に行われ、その後も好天が続き、出芽状況は良好であった。  
越冬前の生育は、播種後、平年より高温多照傾向が続いた影響から、草丈、茎  
数、葉数ともに前進した。

1～2月はほぼ平年並の気温推移で、降雪量はやや少なめであった。

3月上旬以降は急激な高温となり、中旬の降水量は平年と比べ多くなった。

農業試験場の調査によると、麦の生育は大麦、小麦ともに草丈、茎数、葉数  
の何れも平年と比べ多い傾向がみられたが、3月15日の調査では、小麦(シ  
ラネコムギ)の茎数のみ平年と比べ少なかった。

大麦(ファイバースノウ)の幼穂形成期は平年並の2月下旬であったが、小  
麦では平年と比べ10日程度早くなった。茎立期は大麦、小麦とも平年並の進  
展であった。

第1表 麦の生育状況

須坂市(農業試験場作物部)

品種名	区分	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	葉数 (枚)	幼穂 形成期	茎立期
ファイバースノウ (大麦)	平年	948	15.3	7.5	2/27	3/28
	前年	1203	14.6	8.2	2/24	4/1
	本年	1263 (133%)	18.5 (121%)	8.2 (+0.7)	2/28 (+1)	3/27 (-1)
シラネコムギ (小麦)	平年	1135	19.4	7.6	3/15	3/27
	前年	1248	16.9	8.7	3/11	4/1
	本年	1000 (88%)	21.2 (109%)	8.9 (+1.3)	3/6 (-9)	3/27 (+0)

<耕種概要>播種期:大麦 令和4年10月20日、小麦 令和4年10月20日

(注) 平年値は過去7か年における最大値と最小値を除いた5か年の平均値。

本年の茎数、草丈、葉数は3月15日調査、()内は平年比または平年差。

### (2) 病虫害の発生状況

#### ①小麦の土壤伝染性ウイルス病(コムギ縞萎縮病・麦類萎縮病)

生産現場では、耐病性品種への変更や大麦への転換等が行われているた  
め、発生は目立たなくなっているが、罹病性品種作付けほ場の一部で発生  
がみられている。

## 2 りんご

### (1) 生育概況

ふじの発芽は、平年と比べ7日早かった。展葉は平年と比べ11日早かった。

第1表 りんごの生育状況

須坂市(果樹試験場) 4月13日現在

品種名	区分	発芽	展葉	開花	満開	落花
ふじ	平年	3/30	4/12	4/28	5/2	5/7
	前年	3/31	4/10	4/24	4/28	5/6
	本年	3/23	4/1			

平年は、1991年から2020年までの平均値。

(2) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、第一次伝染源である“ぼけ芽”（罹病枝率）はみられなかった。

第2表 うどんこ病の平均罹病枝率 (%)

地域	調査ほ場数	本年 2023年	2022年	2021年	2020年
東信	5	0	0	0.3	0.5
南信	5	0	0	0	0
中信	6	0	0	0	0
北信	16	0	0	0.2	0.1

本年調査日：令和5年（2023年）2月7日～3月16日

②リンゴハダニ

巡回調査では、リンゴハダニの越冬卵が全域でみられた。東信地域及び中信地域では越冬卵数は平年と比べ多かった。

第3表 リンゴハダニの1短果枝あたりの越冬卵数 (か所・個)

地域	2023年（本年）			平年	2022年	2021年	2020年
	調査ほ場	寄生ほ場	越冬卵数				
東信	5	2	1.5	1.2	0	0	0
南信	5	5	2.3	2.6	1.3	4.0	3.4
中信	6	2	2.2	0.3	3.0	0	0
北信	16	2	0.1	0.3	0.4	0	0

本年調査日：令和5年（2023年）2月7日～3月16日

平年は、2013年から2022年までの平均値。

越冬卵数の計算方法は、以下の基準及び計算方法より算出。

- 越冬卵数程度別基準  
無：0個、少：1～25個、中：26～50個、多：51～75個、甚：76個以上
- 1短果枝あたりの越冬卵数  
 $13 \text{ (少の短果枝数)} + 38 \text{ (中の短果枝数)} + 63 \text{ (多の短果枝数)} + 88 \text{ (甚の短果枝数)}$   
調査短果枝数

3 **なし**

(1) 生育概況

発芽は平年と比べ6～7日早かった。鱗片脱落は平年と比べ8～9日早かった。展葉は平年と比べ9～11日早かった。開花始は平年と比べ9～11日早かった。

第1表 なしの生育状況 高森町（南信農業試験場） 4月13日現在

品種名	区分	発芽期	鱗片 脱落期	展葉期	開花期		落花期
					始	盛	
二十世紀	平年	4/ 1	4/ 9	4/14	4/18	4/20	4/29
	前年	4/ 1	4/ 8	4/11	4/13	4/14	4/24
	本年	3/25	3/31	4/ 3	4/ 8	4/10	
幸 水	平年	4/ 3	4/ 9	4/17	4/20	4/23	5/ 1
	前年	4/ 7	4/10	4/13	4/15	4/16	4/26
	本年	3/28	4/ 1	4/ 8	4/11	4/12	
豊 水	平年	3/31	4/ 7	4/12	4/17	4/20	4/28
	前年	3/31	4/ 6	4/10	4/13	4/14	4/24
	本年	3/24	3/29	4/ 3	4/ 6	4/ 8	

平年は、2001年から2020年までの平均値。

(2) 病害虫の発生状況

①黒星病

ナシ黒星病菌子のう胞子の飛散は、4月第2半旬から確認された。

第2表 ナシ黒星病菌子のう胞子飛散消長（個）

高森町（南信農業試験場） 4月14日現在

区分	4月					
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬
平 年	8	180	384	1,029	4,075	2,025
前 年	0	0	3	27	109	1,423
本 年	0	1	1			

平年は、2013年から2022年までの平均値。

②ハダニ類

ハダニ類の越冬卵は、南信地域の3か所で平年と比べ多かったが、他は平年並であった。

第3表 ハダニ類の1短果枝あたりの越冬卵数(個)

区分	二十世紀				幸 水				
	飯島町	中川村	飯田市	松川町	高森町	豊丘村	下條村	松川町	塩尻市
平年	0.7	0.4	0.5	0.9	0.3	0	0.1	0	0
前年	1.3	0	0	0.4	0	0	0	0	0
本年	0	0	1.7	1.3	2.2	0	0	0	0

平年は、2013年から2022年までの平均値。

越冬卵数の算出方法は「りんご」（リンゴハダニ）を参照。

## 4 もも

### (1) 生育概況

白鳳と川中島白桃の発芽は、平年と比べ7日早かった。

白鳳と川中島白桃の展葉は、平年と比べ14日早く、開花は平年と比べ12日早かった。

秀峰（初刈）の発芽は、平年と比べ6日早かった。展葉と開花は平年と比べ13日早かった。

第1表 ももの生育状況 須坂市（果樹試験場） 4月13日現在

品種名	区分	発芽	展葉	開花	満開	落花
白鳳	平年	3/30	4/21	4/18	4/24	5/2
	前年	3/31	4/14	4/15	4/21	4/27
	本年	3/23	4/7	4/6	4/9	
川中島白桃	平年	3/30	4/21	4/18	4/24	5/3
	前年	4/4	4/17	4/17	4/24	4/28
	本年	3/23	4/7	4/6	4/13	
（初刈） 秀峰	平年	3/28	4/19	4/16	4/21	4/30
	前年	3/28	4/14	4/13	4/19	4/27
	本年	3/22	4/6	4/3	4/7	

平年は、1991年から2020年までの平均値。

「秀峰」は2008年から、「白鳳」は2009年から、「川中島白桃」は2019年から調査樹更新。

## 5 うめ

### (1) 病害虫の発生状況

#### ① かいよう病

#### ② 黒星病

うめの病害虫の発生状況については、4月月報より記載する予定である。

## 6 野菜

### (1) 病害虫の発生状況

#### ① アブラナ科野菜のコナガ

フェロモントラップによる誘殺頭数は、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）では3月第2半旬、塩尻市（野菜花き試験場）では3月第5半旬、朝日村古見（地区発生予察ほ）では3月第6半旬に初誘殺された。

初誘殺の時期は、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）では平年と比べ1半旬早く、塩尻市（野菜花き試験場）、朝日村古見（地区発生予察ほ）では平年と比べ3半旬遅かった。

第1表 コナガ成虫のフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	3月					
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬
塩尻市宗賀 （県発生予察ほ）	キャベツ・ はくさい	平年	0.0	0.3	0.0	0.0	0.8	1.6
		本年	0	0	0	0	2	0
小諸市山浦 （県発生予察ほ）	キャベツ・ はくさい	平年	0.0	0.0	0.7	0.7	1.0	0.6
		本年	0	2	1	1	1	2
朝日村古見 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0
		本年	0	0	0	0	0	1

平年は、2013年から2022年までの平均値。

#### ② レタスのナモグリバエ

黄色粘着トラップによるナモグリバエの誘殺頭数は、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）では、3月第2半旬に初誘殺された。

第2表 ナモグリバエの黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	3月					
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬
小諸市山浦 （県発生予察ほ）	キャベツ・ はくさい	平年	-	-	0	0	0.2	0.8
		本年	0	1	0	0	1	1

平年は、2018年から2022年までの平均値。

#### ③ たまねぎの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

#### ④その他のフェロモントラップ等誘殺状況

塩尻市（野菜花き試験場）における調査では、前年及び平年と同様にオオタバコガの誘殺はみられなかった。

タマナギンウワバでは、塩尻市（野菜花き試験場）で3月第2半旬に、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）で3月第3半旬に初誘殺が確認された。

黄色粘着トラップによる有翅虫の飛来消長調査では、塩尻市（野菜花き試験場）及び小諸市（野菜花き試験場佐久支場）において、平年（2017年から2022年までの平均値。）と比べ4半旬早い3月第2半旬にアブラムシ類の初誘殺が確認された。